

平成 2 8 年

第 8 回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

平成28年第8回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項について報告します。

はじめに、平成28年秋の叙勲受章者についてです。

元仙北市長の石黒直次（いしぐろなおつぎ）さんが地方自治功勞で旭日双光章を、元警察官の荒木田佐利（あらかださとし）さんが警察功勞で瑞宝双光章を、元仙北市消防団長の佐藤生治（さとうせいじ）さんと元仙北市西木消防団長の浅利重昭（あさりしげあき）さんが、消防功勞により瑞宝単光章を受章されました。

この度の受章は、永年にわたる職務の精励や功績・功勞が認められたものです。

市民の皆様とともにご労苦に感謝し、心からお祝いを申し上げます。

次に、思い出の潟分校についてです。

田沢湖畔の「思い出の潟分校」については、これまで管理運営にあっていた地元の運営委員会代表から、日常の維持管理が困難になってきたことや、一部施設の改修が必要になってきたことなどで、今後の管理運営については、市で引き受けてもらえないかとの要望をいただいています。

市では、庁内にプロジェクトチームを設置し、現地調査等も行いながら検討を進めていますが、現段階では、市の施設として来年度以降も広く活用を図っていきたいと考えています。今後、施設の改修や周辺の整備について、当該地区が辺地区域にあることから、辺地計画に盛り込むことができないか精査中です。また、併せて6月にオープンを予定しているクニマス未来館（仮称）との連携、集落の皆様との地域づくりでの連携、さらには運営に関してクラウドファンディングの手法を取り入れることができないか等、株式会社秋田銀行及び株式会社北都銀行からご推薦をいただいた市の総合戦略アドバイザーより、具体的な提案をいただくことにしています。

次に、一般会計補正予算についてです。

第4号の補正額は34万6千円です。改正による議員報酬等の追加分で、改正条例の制定と併せ本日の議決をお願いするものです。

第5号の補正額は5,873万2千円の減額で、補正後の額は200億5,942万円となります。10月11日に成立した国の補正予算で追加された臨時福祉給付金（経済対策分）給付事業費、地域介護・福祉空間整備推進事業費、担い手確保・経営強化支援事業費補助金、農業基盤整備促進事業費の4事業で、5,833万4千円を計上しました。その他の主な事業は、あきた未来づくり協働プログラム事業費、地域総合整備資金貸付金、障がい者支援施設「かわ舟の里角間川」改築事業費補助金、道路改良事業費、仙北市ウインタースポーツパワーアップ事業費、児童・生徒派遣費補助金などです。

次に平成29年度の財政見通しについてです。

総務省の平成29年度概算要求では、地方交付税は平成28年度国の当初予算額と比べ4.4%減になっています。財務省へ提出された財政制度等審議会の建議に地方交付税を抑制する内容等が盛り込まれたため、今後示される地方財政計画を注視せざるを得ない状況です。

市では、地方交付税が今年度から段階的に合併算定替の縮減も開始されているため、厳しい財政運営を強いられることが予想されます。人件費及び公債費で一定の縮減は見込めますが、物件費、社会保障費、繰出金の増加は間違いありません。

平成29年度当初予算では、第2次仙北市総合計画や仙北市総合戦略の2年目として、基本目標達成に向けた具体的な施策に重点配分し、市民協働のまちづくりや地方創生等、より良い将来像の実現を目指します。予算編成に当たっては、歳入では自主財源の更なる確保に努め、歳出では事務事業の徹底検証と切り込みを行い、同時

に次代のまちづくりに足踏みすることなく挑戦する姿をしっかりと
お示ししたいと考えています。

次に、各部局等の主要事項並びに諸般の状況等を報告します。

【総務部】

◇青山学院大学との包括連携協定の締結について

11月28日、仙北市と青山学院大学との「包括連携に関する協
定」の締結式を行いました。

青山学院大学からは、三木義一（みきよしかず）学長、田中正郎
（たなかまさお）副学長、そして仙北市の観光大使もお願いしてい
る橋本修（はしもとおさむ）副学長が出席され、青柳議長には立会
人を務めていただきました。

協定内容は、双方が包括的な連携のもとで相互に協力し、地域社
会の発展と人材育成及び学術の振興に寄与すること等を目的に、地
域づくりやまちづくり、産業の振興、健康・福祉の推進、自然環境
・生活環境の推進、教育・文化の振興など、多岐にわたっています。
先ずはお互い出来るものから取り組みを行うことを確認しました。
今後、青山学院大学の人材や技術、ノウハウ等の提供をいただきな
がら、市政推進の力にしていきたいと考えています。

◇総合教育会議の開催について

11月18日に今年度第2回目の総合教育会議を開催し、学校適
正配置や総合給食センター建設、総合体育館(仮称)建設等について、
協議・検討を行いました。

学校適正配置については、「仙北市学校適正配置研究検討委員会」
の検討経緯と現状について報告があり、今後の方向性について議論
を行いました。研究検討委員会では、現在、学校の適正配置に係る
提言書(案)の検討が行われています。12月中に取りまとめを行う
ことを確認しました。

総合給食センターについては、第1回仙北市総合給食センター建設検討委員会についての報告がありました。現在、候補地となっている4ヶ所についての協議を行い、各学校への給食搬送時間や距離、敷地面積等の状況を比較検討しました。

総合体育館(仮称)の建設については、スポーツなど各種大会のみならず、文化振興や防災にも配慮した体育館にすべきとし、今後は建設財源の精査、既存体育館の統廃合等の方向性も含めて検討していくこととしました。

◇市役所の機構改革について

来年度の市役所部課等の機構改革について、主要な事項をご報告します。

はじめに、建設部と企業局についてです。仙北市の簡易水道事業は平成29年度より上水道事業への事業統合を、また、下水道事業は平成32年度の公営企業会計の適用に向けた準備をそれぞれ進めています。こうしたことから、企業局で扱っている公営企業会計事務のノウハウを活かし、スムーズに下水道事業を公営企業会計適用に移行させたいこと、また公営企業会計を一つの部署で担当し効率的に業務を進めたいことから、企業局を廃止し、その業務を建設部で所掌することとしています。温泉事業については、温泉施設に近距離の田沢湖地域センターに専任の職員を配置し、日常の管理や突発的な故障等に即応する態勢を整えます。このほか、建設課と都市整備課は共通する事務が多いことから、課を統合し業務の効率化を図ります。

二点目は、市民福祉部についてです。長寿支援課の居宅介護支援事業所は、今年度末をもって廃止することとし、現在利用されている方々の民間事業所への利用契約変更手続きを進めています。

三点目は、観光商工部についてです。仙北市が目指す「小さな国際文化都市」の実現に向け、これまで以上にインバウンド対策を推進し、海外からの観光客を増加させたいと考えています。そこで、

農山村体験デザイン室で所掌している国際観光・国際交流に関する事務は、観光商工部に新たなセクションを設け、取り組みを強化することとします。

◇カラ吹き源泉事故に係る損害賠償の申し立てについて

カラ吹き源泉事故に係る損害賠償については、これまで、顧問弁護士等の助言をいただきながら、数回にわたりご遺族と話し合いを進めてきましたが、このほど和解の内諾をいただきました。

このため、和解に関する確認書を取り交わした後、今定例会期中に和解及び損害賠償に関する議案を追加提案し、ご審議をいただく予定です。

◇「2016 科学技術イノベーションと社会発展フォーラム」について

10月14日、中国北京で開催された「2016 科学技術イノベーションと社会発展フォーラム」に担当者を派遣し、仙北市が取り組む地方創生・近未来技術実証特区事業の説明を行いました。

同フォーラムは、持続可能な日中国家成長戦略について学術的な交流を図ることを目的に毎年開催されています。日本側からは仙北市・経済産業省・在北京日本大使館の幹部の他、IT関連企業などから20人が、また、中国側では政府関係者50人が参加しました。

仙北市からは、特区全般の取り組み状況や観光情報の提供を行い、大変に興味を持っていただくことができました。また、経済産業省経済産業政策局長が、日本の「新成長戦略と第4次産業革命」を説明し、この中でも地方小都市の仙北市が、国の大方針に基づき様々な努力をしていることに言及をいただきました。今後の日中協力の発展、仙北市と経済産業省とのパイプづくりに大きな成果があったと感じています。

◇「IT関連企業によるテレワーク実証実験」について

10月17日から20日にかけて、電子証明書発行サービスなどを行うIT関連企業・サイバートラスト株式会社の社員4名が仙北市内に滞在し、ITを活用して自宅や環境の良い場所で働く「テレワーク」の実証実験を行いました。仙北市が国の地方創生・近未来技術実証特区に指定されていることに着目し、試験地として選定をいただいたとお聞きしました。

社員の滞在中、田沢湖地内の農家民宿や温泉施設を拠点に、様々な資源を活用した実証で、脈拍等を測る生体センサーによるデータ測定、能率向上やストレス解消度等の分析を行いました。その結果、仙北市はテレワークに理想的な街と判断をいただきました。仙北市が仕事場所と宿泊場所が豊富なこと、温泉や自然、食事、演劇鑑賞、各種体験施設、歴史的建造物といった多様な資源が要因となっているとの説明を受けました。今後もカウンセラーなど、専門家の知見を取り入れながら仙北市で実証実験を続けるほか、ヘルスケア事業の提案もいただけるそうです。

◇「ヘルスケアツーリズム推進検討会」について

秋田大学医学部・市内医師・病院事業関係者・観光事業者などの皆様に委員をお引き受けいただき、11月7日、第1回「仙北市ヘルスケアツーリズム推進検討会」を開催しました。昔ながらの「湯治文化」を磨き上げ、温泉の活用による市民の健康維持と増進、各資源の高度活用、さらにはインバウンド対策も視野に入れた重要な議論の場と位置付けています。

委員からは、「医師・看護師の他、理学療法士や管理栄養士、保健師などの専門家で質を高める」こと、また「温泉の泉質ごとに効能の科学的根拠を蓄積し、利用者に提供できるようにすること」など、方針策定に向けた意見をいただいています。これらを集約して来年度の予算編成に繋げたいと考えています。

◇「外国人受け入れ東京ラウンド」について

11月12日、「イニシアチブNipponプロジェクト地域意見交換会」（主催：一般財団法人・未来を創る財団）に出席し、外国人の受け入れの現状と課題をテーマに意見交換を行いました。

秋田県からは、仙北市と大潟村が出席し、私から「国際交流としての外国人医師の修練制度拡大」、「観光分野での外国人材の受け入れ」について、また、大潟村の高橋浩人（たかはしひろと）村長から「農業分野での外国人材の受け入れ」について発言をしました。この後、国で議論が加速することを願っています。

◇「無人運転バス（ロボットシャトル）の公道実証実験」について

自動車の完全無人運転（レベル4）を見据えた技術革新と法規制整備上の課題抽出を目的に、11月13日、内閣府と共催で無人運転バス（ロボットシャトル）の公道実証実験を行いました。無人バスの運行は、最先端技術を支える株式会社DeNA（ディー・エヌ・エー）が行い、公道での完全無人運転・レベル4相当実験は日本初です。会場は田沢湖畔県道で、約400メートル区間を封鎖して実施しました。実験にあたり、秋田県や秋田県警、地元の皆様には大変なご理解をいただきました。またセレモニーを盛り上げていただいた8台のドローン飛行は、仙北市内の各ラジコンクラブや「近未来技術を活用した新たな産業づくり支援協議会」の有志の方々のご協力で実現しました。この場をお借りして皆様に感謝を申し上げます。

当日は、仙北市内の小学生2人が絵や作文で未来の夢を紹介し、山本幸三（やまもところぞう）地方創生・規制改革担当大臣をはじめ、一般の事前応募者や当日の一般抽選、マスコミ関係者など約60人の方々にご試乗をいただきました。

今後、自動運転の技術革新、法律整備の進展状況を見ながら、集落間移動、公共施設や病院・商店街など市民生活の足としての実運用を目指します。先日、道路事業の要望で国土交通省を訪ねた際、事務次官と道路局長からも、今後の取り組みに期待する言葉をいた

できました。

これらのことから、株式会社D e N A (ディー・エヌ・エー)や他の民間企業の実証実験の舞台として、仙北市がいつでもその役割を果たせるよう、新たに公道実験のエリア設定に向けた準備に着手します。

◇「山本幸三地方創生・規制改革担当大臣の視察」について

11月13日の無人バスの走行実証実験後、山本幸三地方創生・規制改革担当大臣が、仙北市内で懇談と視察を行いました。

国有林野活用促進事業に取り組む有限会社グランビアでは関係者との懇談及び「生ハム工房」視察、着地型旅行商品の販売・代金収集で必要な旅行業法等の規制緩和では、農家民宿を代表して仙北市農山村体験推進協議会会長が経営する農家民宿「星雪館」を視察しました。また、武家屋敷の「河原田家」と「小田野家」や「安藤醸造の蔵座敷」なども視察しています。いずれの会場でも、山本大臣から多くの提案をいただき、さらに「仙北市に大きな可能性を感じる」との感想もいただきました。必要となる現行法などの規制緩和に向けて、一つひとつ丁寧に対応をしたいと思います。

◇「SEMBOKUドローンスクール開講」について

地方創生加速化交付金を利用し、新たなドローンスクールを開講しています。無人航空機操縦者養成事業を行う株式会社s k y e r に講師を依頼し、建設・農業分野などで活用現場からドローンの現状を学ぶ実用的なプログラムの他、初級・中級・映像講座など初めての方でも安心して学べる講座です。11月5日には第1回目の初級講座を開講、20人が受講しました。アンケート調査の結果では、約80%が全体内容について非常に面白く、講座に対しても満足との回答をいただきました。引き続き12月から1月にかけて講座を複数回開催し、技術習得者の増加に努めます。

◇「日本陸水学会の仙北市開催の決定」について

第82回日本陸水学会が仙北市田沢湖大会として開催されることが決定しました。来年9月28日から10月1日まで、多くの陸水研究者・学生・民間関係者をお迎えします。学会員のほか、市民や次世代を担う子ども達も参加できるように、公開講座も開設していただけると聞いています。

仙北市田沢湖大会での主要テーマのひとつが、「田沢湖再生」です。市をあげて陸水学会の開催を支援したいと考えています。

◇地域総合整備資金（ふるさと融資）の貸付けについて

角館町横町で株式会社町家ホテルが建築を進める中心市街地宿泊施設整備事業は、10月21日にふるさと財団から地域総合整備資金の貸付対象事業とする旨の連絡がありました。建築工事は順調に進んで、工期は平成29年2月までとなっています。貸付予定時期は平成29年3月で、連帯保証人は北都銀行です。事業総額は4億700万円、貸付金額は1億6,800万円です。今回本事業に関連する補正予算を計上しています。ご審議をよろしくお願いします。

◇仙北市女性の活躍推進交流会の開催について

11月7日、あきた芸術村を会場に「仙北市女性の活躍推進交流会」が開催されました。主催は同交流会実行委員会です。

市内外の企業などから143人の参加があり、「リーダーからの処方箋：活躍できる社会と地域経済の活性化」と題したパネルディスカッションでは、秋田県立大学准教授の小松田儀貞（こまつだよしさだ）さんをコーディネーターに、秋田銀行専務取締役の東海林俊夫（しょうじとしお）さん、北都銀行専務取締役の富岡行介（とみおかこうすけ）さん、わらび座俳優の椿千代（つばきちよ）さん、市内での事業化を進めているハピネス&エモーション代表の草彘幸子（くさなぎさちこ）さん、そして私の5人がパネリストを務め意見交換を行いました。

市が実施した市民アンケートの結果報告では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対し、「反対」「どちらかといえば反対」が61.3%を占め、全国平均の49.4%に比べ、男女の役割分担への意識が柔軟であることが伺える結果でした。

今後はアンケート結果等を踏まえ、「第3次男女共同参画計画」と「女性の職業生活における活躍についての推進計画」の策定を進めたいと思います。

◇公共施設等総合管理計画について

市が所有する全ての公有財産について資産をリストアップし、必要な情報の収集・整理を行い、さらに仙北市の人口や財政状況等の現況、将来の見通しを踏まえ、公共施設をどのように管理していくのか、その基本的な計画の素案を策定しました。

素案には、計画期間、対象施設、取組体制、基本方針、数値目標等を定めています。

公共施設等の管理の基本方針としては、災害発生時の体制を構築することを最も重要な命題と捉え、避難場所や備蓄倉庫などの必要な施設を確保した上で、複合化・集約化・転用・除却を推進し、公共施設の最適配置を図ります。目標数値は、建築系公共施設の延床面積“30年間で35%縮減”です。この設定に基づき施設類型ごとの基本方針を定めたものです。

本定例会中に同素案をお示しして内容を説明します。その後パブリックコメント、総合政策審議会等で市民の意見をお聞きし、その上で2月定例会に計画原案を報告し、本年度末までの成案化を目指します。

◇互助救済事業について

市所有建物の災害共済保険は、現在、一般財団法人全国自治協会へ委託しています。これまで、市町村合併等により共済委託期間中に市制を施行する団体等に適用していた低率となる特例の共済掛金

は、平成29年3月末日をもって廃止されることが同協会の理事会で議決されました。従って平成29年度からは同協会の共済掛金が高くなります。そこで来年度からは低率の掛金となる公益社団法人全国市有物件災害共済会へ委託先を変更する予定です。

この変更については議会の議決が必要となります。本定例会でのご審議をお願いします。

◇火災の発生について

10月21日、角館町岩瀬下夕野地内でゴミ収集車のゴミ投入口付近から火が出る事案が発生しました。出火原因はガスライター等の可燃物がゴミの中に混ざり、圧縮した弾みで引火したものと推定されます。

また、10月24日、田沢湖卒田字夏瀬地内の無料休憩所の入り口付近から出火し、木造休憩所114.3平方メートルを全焼する火災が発生しました。原因については調査中ですが、この火災によるケガ人等はいませんでした。

◇きのこ採り遭難事案について

10月23日、きのこ採りで生保内川上流へ出かけた田沢湖刺巻の64歳男性が、高さ約5mの崖から滑落して自立歩行ができなくなったと、同行した友人から消防署に救助要請が入りました。

この日は気流が不安定で防災ヘリ「なまはげ」による救出はできず、広域消防職員28人で先発隊、2次隊、3次隊を編成し地上から救助に向かいました。

滑落現場に到達するまで生保内川の横断が必要だったり、堰堤が設置されている急斜面があったりなど、地上隊は滑落現場まで約1時間、下山には約3時間かかりましたが、無事に救出することができました。救助された男性は、右大腿骨骨折の重傷でした。

◇交通事故について

10月31日、田沢湖卒田字柴倉の国道46号でタクシーと軽ワゴン車2台が絡む事故が発生しました。

この事故でタクシーを運転していた角館町藺田の68歳男性が頭を強く打って意識不明の重体、ほかに5人の方々が重軽傷を負いました。事故原因については仙北警察署が調査中です。

◇中学生防災防火弁論大会について

11月9日、西木温泉ふれあいプラザクリオンを会場に秋田県消防協会大仙仙北美郷支部中学生防災防火弁論大会が開催されました。当日は市内各中学校を代表して5人の生徒が、地域の防災や火災の啓発など、体験談をもとに素晴らしい発表をしました。審査の結果、桜木内中学校3年の伊藤和磨（いとうかずま）さんが最優秀賞を受賞しました。

◇仙北市交通安全市民大会について

11月20日、角館樺細工伝承館で「平成28年度交通安全市民大会」を開催しました。交通安全功労者表彰では、長年交通安全にご尽力をいただいた5人・1団体の皆様を表彰しました。また、大会では「飲酒運転撲滅・無謀運転撲滅・交通弱者への配慮・交通教育」の4つを大会宣言とし、新たな試みとしてJAF（日本自動車連盟）及び仙北警察署の協力のもと、タカヤナギワンダーモール駐車場を会場に、交通安全フェアを開催しました。

◇除雪講習会の開催について

12月15日、仙北市就業改善センターを会場に「除雪講習会」を開催します。これは本格的な降雪期を前に、安全な除排雪方法の習得及び安全対策への高揚を図り、作業中の事故防止を目指すものです。対象は、一般の方や、地域運営体等を予定しています。

◇仙北市消防団出初め式について

1月6日、仙北市消防団出初め式を開催します。

角館庁舎から角館交流センターまでの区間を分列行進し、その後、市民会館で勤続40年以上の永年勤続や功労などの団員表彰、また火災防御活動や消防活動の協力者への感謝状贈呈を予定しています。

【市民福祉部】

◇生活保護引下げ処分取消請求訴訟について

9月13日、仙北市民1人を含む原告37人により、仙北市・秋田市・能代市・湯沢市及び秋田県を被告として、生活保護引下げ処分取消請求訴訟が秋田地方裁判所に提起されました。

内容は、福祉事務所が行った平成27年度の生活保護費の減額変更処分の取消しを求めるものですが、実質的には厚生労働大臣が定めた生活保護基準の引下げの違憲性・違法性を争うものです。

この訴訟は、平成27年5月22日に提起された平成25年度及び平成26年度の生活保護引下げ処分取消請求訴訟に対する裁判と同様に、「国の利害に関係のある訴訟についての法務大臣の権限等に関する法律」の規定に基づき、法務局検事及び関係職員が実務を担当します。

◇社会福祉法人「はなさき仙北」について

田沢湖地区にある認定こども園2園については、今年度から社会福祉法人はなさき仙北が運営しています。市から職員を派遣する等、保育環境に十分配慮し運営は順調です。はなさき仙北では、来年4月から法人正職員として、事務職員1人、保育教諭4人の採用を予定しています。今後も引き続き安定した運営に向け、法人と連携をしていきます。

◇地域包括ケアシステム構築に向けた事業の取り組みについて

仙北市は団塊の世代が75歳以上となる平成37年までに、仙北市としての地域包括ケアシステムを構築するための準備を進めています。

在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業、認知症施策推進事業、地域ケア会議事業、介護予防・日常生活支援総合事業、これら5つの事業を推進することで、地域包括ケアシステムの構築を図ろうとするものです。

これらに加え、新規事業の認知症初期集中支援事業（認知症の発症予防、早期発見、早期診断等、早期対応）を平成29年1月1日から実施します。さらに、介護予防・日常生活支援総合事業については、平成29年4月1日から訪問介護と通所介護及び介護予防事業等、また、これまで介護保険事務所で行っていた介護予防給付管理の一部を仙北市で実施することとなります。

今後とも市民の皆様に随時説明を重ね、ご協力をいただきながら推進します。

◇高齢者介護予防推進事業について

平成29年度新規事業で、クリオン温泉プールを活用して高齢者介護予防推進事業「ワクワク浮き浮き教室」を実施する準備を進めています。健康運動指導士や温泉利用指導者等の指導で、高齢者の健康増進及び介護予防を目的としています。細部については調整中ですが、皆様にご参加をいただきたいと思います。

【観光商工部】

◇抱返り紅葉祭について

10月10日から11月10日まで抱返り紅葉祭が開催されました。今年の紅葉祭は期間中を通して天候に恵まれましたが、中々色づきが進まず、期間終盤にやっと見頃を迎えたため、観光客数は前

年に比べ13%減の6万6千人でした。今年の特徴としては、全体の2割程が外国人観光客で、特に台湾からのお客様が多く見られました。今後の課題として外国人の対応力強化が必要です。まずはガイドの育成やパンフレットの作成、トイレの整備等を進めます。

◇田沢湖線全線開通50周年事業について

田沢湖線全線開通50周年を記念して、10月22日に田沢湖駅まつり、10月29日に角館駅まつりが開催されました。田沢湖駅では、「ミニE6こまち」の乗車体験、保守作業用自動車の展示、地元の名物料理の販売等、たくさんのイベントで来場者に楽しんでいただきました。角館駅では「ミニSL・人力車」の乗車体験、郷土芸能の演技、書道パフォーマンス、よさこい、わらび座ミニコンサート等のイベント、また、仙北市観光大使のグッチ裕三さんも参加して、じゃんけん大会等を大いに盛り上げていただきました。

また、列車の発着時に地元の郷土民謡でお客様をおもてなししたいと、以前より要望のあった「おもてなしメロディー」は、JR東日本秋田支社のご理解により、田沢湖線全線開通50周年を記念して実現することができました。田沢湖駅では「生保内節」、角館駅では「飾山囃子」が10月20日から流れています。改めて関係の皆様のご理解とご協力に感謝を申し上げます。

◇3D連携を基軸にした交流拡大事業について

東北全体でのインバウンドの回遊性を高めるためには、外国人に知名度の高い北海道から外国人観光客を取り込むことが重要です。世界に向けたゲートウェイを有する函館市は、国際定期便を有していることから、年間40万人もの外国人旅行客が訪れています。また北海道新幹線開通により、東北へのアクセスが格段に向上し、この地域に観光客が訪れる可能性は、極めて高いと思われます。このため、10月11日、大館市の福原淳嗣（ふくはらじゅんじ）市長とともに函館市の工藤壽樹（くどうとしき）市長を訪問し、函館市

・大館市・仙北市(角館)をつなぐ3Dプロジェクト(立体的観光連携)の打ち合わせを行いました。3市連携を積極的に進め、情報発信やイベント開催等を通じて、外国人観光客や国内旅行客の周遊ルートの広域形成を実現したいと思います。来年度当初で関連事業予算を計上できるよう準備を進めます。

◇ディスカバー農山漁村の宝30選について

農林水産省等が主催し、地域資源を生かした地域活性化活動の優良事例を選定する「ディスカバー農山漁村の宝」に、仙北市農山村体験推進協議会が選出されました。全国769団体の応募の中から優秀な30団体が選出されたもので、仙北市の協議会では農山村への外国人の受入や国内修学旅行の受入の増加が評価されての受賞です。同協議会はその中でも特に評価の高い9団体に選ばれています。最優秀賞の発表は12月3日と聞いています。

◇台湾からの観光誘客と交流について

台中市立恵文高級中学の生徒32人が、11月10日から2泊3日の日程で仙北市に滞在し、角館高等学校との学校交流等を行いました。仙北市は平成24年度から台湾の教育旅行誘致に取り組んできましたが、今年度は初めて100人を超える修学旅行生の受入れとなりそうです。また教育旅行に限らず、市の台湾人向け観光パンフレットが好評で、これは市内の観光地を訪れる台湾人観光客の増加と関連しています。

先月行われた市議会の観光振興議員連盟の皆様を訪台活動では、「台湾亞太国際温泉旅遊会議」を来年の春に仙北市で開催することや、台湾の澄清湖と本市田沢湖の姉妹湖締結30周年記念行事を来年の秋に開催することなど、具体の話し合いがあったとお聞きしています。

また、11月6日～9日の日程で、角館高等学校の生徒36人と先生4人が修学旅行で初めて台湾を訪れ、昨年姉妹校協定を結んだ

台北市の国立台湾師範大学附属高級中学を訪問し、活発な交流を行ってきたとの報告を受けています。

この機を逃さず、「小さな国際文化都市」を標榜する仙北市として、さらに台湾との関係強化を図りたいと考えています。

◇第44回角館町樺細工伝統工芸展の開催について

伝統と技術の研鑽による作品を一堂に展示し、その評価向上と一層の工芸振興等を目指し、10月20日から26日まで樺細工伝承館を会場に第44回角館町樺細工伝統工芸展が開催されました。今回の工芸展では「海」をテーマとし、伝統的工芸品の部に16点、一般品の部に41点の計57作品が出展されました。工芸展に先立ち行われた審査では、16点の入賞作品が選出され、伝統的工芸品の部の最高賞、秋田県知事賞には荒川慶太郎（あらかわけいたろう）さんの作品「茶筒」が輝きました。また、職人こだわりの作品など約350点が展示・即売され、伝統的な技法やデザイン性の高い作品を一目見ようと、期間中およそ3,500人に来館をいただきました。開催期間は昨年より1日短かったものの、1日平均売上げ額は前年度を上回る結果となり、心強く思っています。

◇「山の楽市」開催について

11月3日から5日までの3日間、横浜市の相模鉄道三ツ境駅隣接の商業施設三ツ境ライフで、仙北市の観光と物産展「山の楽市」を開催しました。これまでは二俣川駅構内特設会場での開催でしたが、横浜市街地再開発事業の関係で、今年初めて三ツ境ライフでの開催となったものです。新会場の都合もあり前年より4事業者減の15事業者が出展しました。期間中は首都圏在住のふるさとサポーターの皆様のご協力で、新米のあきたこまちをはじめ、直送した仙北市の秋の味覚の数々を販売できました。売上げ額は、出展事業者の減などで前年度には及びませんでした。当初の目標額を上回る実績となりました。また、開催中は秋田おばこやナマハゲに扮した

職員らが、駅改札前で市の観光と物産を大いにアピールし、お客様から好評をいただくことができました。相模鉄道株式会社はじめ、グループ各社の格別なご支援には、深く感謝を申し上げます。

【農林部】

◇経営所得安定対策について

水稻の作柄概況について、10月15日現在の農林水産統計による秋田県の作況指数は104で、昨年に引き続きやや良と発表されています。また、秋田おぼこ農協による10月末現在の仙北市産の1等米比率は97.2%（昨年同期98.1%）で、一部地域でカメムシ被害が見られたものの、昨年並みの高い数値となっています。

なお、経営所得安定対策による米の直接支払交付金（10アールあたり7,500円）は、本日、1,279件の加入者に対し1億7,983万5,750円が国から直接農家に交付される予定です。

また、水田活用の直接支払交付金や産地交付金などの転作に係る交付金は、12月末の交付が可能となるよう仙北市地域農業再生協議会が農業者から提出された書類等の確認作業を進めています。

◇農業基盤整備促進事業について

農業基盤整備促進事業は、農地の区画狭小、排水不良、農業用水の不足等、地域が有する課題の解決に向け、また地域の実情に応じ、水田の畦畔除去で区画拡大や暗渠排水整備等を進めるもので、多くの農業者から要望があり、平成25年度に創設されています。これまでは国から事業主体（市町村・土地改良区）に補助金が交付され、事業主体が農業者に補助金を交付し、農業者が工事発注や自力施工等を行うものでした。しかし本年10月に実施要綱が大きく改正され、事業主体が業者に施工を発注し、農業者が一部自力施工すること等が採択要件となりました。

改正に伴う関係予算について、ご審議をお願いします。

◇薬用作物等産地化推進事業について

これまで株式会社ツムラにご指導をいただき、仙北市薬草生産組合（組合員37人）が薬草作物等産地化推進事業に取り組んできました。ビヤクシについては、春に3.5ヘクタールを作付した後、生育は順調に進み、10月中に収穫を終えて乾燥・調整の作業を行っています。収量は概ね標準収量（250kg/10アール）を見込んでいます。他にシャクヤク2.05ヘクタール、ニンジン1ヘクタール、ウド18アール、薬用菌類9.43ヘクタールの作付けを実施していますが、次年度以降の収穫となる予定です。

また、昨年から進めている薬用菌類の適地深索試験栽培は、10月17日～20日にかけて堀上げ調査を実施し、菌核が肥大するなどの増殖が確認されました。これらのことから、株式会社ツムラでは仙北市を薬用菌類栽培の有望適地として、事業を本格化させたいとの思いもあるようです。

今後も、遊休農地等を活用した栽培面積の拡大を進め、安全で安心で高品質な薬用原料の安定供給地を目指し、農業所得の確保に繋がりたいと考えています。このため、株式会社ツムラと薬用作物産地化連携協定等の締結による事業導入にも努力を傾注します。

【建設部】

◇刺巻地域づくり検討会開催について

10月27日、第1回刺巻地域づくり検討会が開催されました。国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所が、国道46号刺巻地区で実施する線形改良事業を契機に、「水ばしょう群生地」を中心として、刺巻地域の観光振興や地域振興策を検討するため、有識者・地元代表などと一緒に立ち上げたものです。

同検討会では、観光と地域資源の状況、事業概要、地域の活動状況と課題について協議が行われ、今後は、道路景観の向上や道路空間の活用可能性等について、さらに協議を進めることとしました。

◇道路整備促進フォーラム開催について

10月28日、盛岡秋田道路と大曲鷹巣道路の両期成同盟会が主催で、仙北市を会場に整備促進フォーラムを開催しました。フォーラムには秋田・岩手両県の行政、商工・観光関係者、また西木町の草峠地区期成同盟会など多数の皆様が出席して盛会に終えることができました。

同フォーラムは、国土交通省秋田河川国道事務所長の渡邊政義（わたなべまさよし）さんによる情報提供、株式会社しずくいし代表取締役の櫻田久耕（さくらだきゅうこう）さん、仙北市商工会青年部長の島川祥（しまかわしょう）さんによる意見発表、仙北市観光大使のグッチ裕三さんによる特別講演などを行い、地域高規格道路として両道路の早期整備を働きかけていくことを確認しました。

また11月17日には秋田県及び国土交通省秋田河川国道事務所、11月24日には東北地方整備局、11月25日には国土交通省と財務省、地元国会議員などへ要望活動を実施しました。

◇都市計画道路岩瀬北野線整備事業について

岩瀬北野線改良工事は、3工区に分けて発注しています。第1工区は10月に完成、第2工区と第3工区は既に工事着手の現状です。内川橋側の第3工区は、一部流雪溝改良工事と重複している個所があり、流雪溝工事が桜木内川の渇水期の施工となるため、工事完成が3月中旬頃と予測しています。また、要望が叶い追加補正をいただいた国庫補助金は、岩瀬北野線の全線舗装工事の充当財源です。これはアスファルトプラントが操業となる3月中旬の工事発注を考えています。

【企業局】

◇温泉事業について

カラ吹き源泉は、今年に入り関連施設の老朽化による漏水事案等で、田沢湖高原温泉郷の皆様、入浴者の皆様に大変なご迷惑をおか

けしました。しかし、新水沢源泉からの引湯管工事が10月31日に完成し、11月1日から供給を開始しています。

11月21日には、議会の皆様をはじめ、源泉所有者の塚本總業株式会社や温泉利用連絡協議会の皆様など、多くの関係者にご出席をいただき、アルパこまくさにおいて通水式を執り行うことができました。温泉事業は仙北市観光の主力で、市民の皆様などの健康維持と増進に、また現在検討が進むヘルスケア事業にとっても不可欠な存在です。今後もしっかりと対応を続け、安全、安心な温泉の安定供給に加えて、旅館やホテルなど各事業者が行う引湯管更新などにも支援ができる制度設計を進めます。

【病院事業】

◇市立角館総合病院改築事業について

市立角館総合病院改築事業の工事進捗状況は、11月末現在で84%となっています。また、外構工事の残工事については、10月7日に万六建設株式会社と9,666万円で契約しています。

本定例会には、新病院の開院に伴う設置条例の改正を上程しています。開院日を平成29年4月1日とし、位置の改正や病床数については、一般病床170床・精神病床36床とし、一般病床28床と精神病床19床を削減し、診療科目にリハビリテーション科を追加する内容です。

開院に先立ち、市民の皆様への内覧会も計画しています。竣工式は3月中を予定していますが、竣工式開催に伴う経費について、本定例会で補正予算をお願いしています。

以上、主要事項並びに諸般の報告を申し上げましたが、本定例会に提案している案件は、報告関係2件、条例関係14件、予算関係13件、その他2件、指定管理者関係13件、人事関係1件、諮問関係1件の計46件です。

慎重審議の上、全議案についてご可決賜りますようお願い申し上げます、市政報告とします。